

プロジェクトリーダー：名古屋産業大学 現代ビジネス学部 岡村聖教授

事業実績調書

(1) プロジェクト名	「みんなで作るCO2濃度マップ」プロジェクト
(2) プロジェクトの成果（※そのような成果が得られたかについて具体的に記載）	<p>コロナ下であったが、瀬戸SOLAN授業で対面授業1回、オンライン質疑応答1回を実施することができた。参加児童に対して、1) 気候変動に対応した学校環境教育の充実、2) 新型コロナに対応した換気対策の徹底を通じて、児童の意識と行動の変容を促す、ことに貢献できたと考える。また、本年度の購入教材や取組記録を活用することで、次年度以降にも同様の取組を行う体制を整えることができた。</p>
(3) プロジェクト実施内容（※事業の実施方法、時期、場所、回数、市民への周知方法、参加人員等を含め、その内容を具体的に記載）	<p>【R3年5月16日】各種資料印刷のためのプリンタインクが納品された。</p> <p>【R3年6月17日】可搬型CO2濃度測定器が納品された。6台のCO2濃度測定器の貸出体制を整えた。</p> <p>【R3年7月6日】オンデマンド型環境学習ビデオ（光合成実験）を経費ゼロで完成させた。</p> <p>【R3年9月8日】プロジェクトへの参加を検討・プレ体験できるように、プロジェクトへの参加校を募集するためのWEBサイトを立ち上げた(https://sites.google.com/view/consortiumsetoco2)。CO2測定器とWifiを利用して1時間授業の中で、適宜教室内のCO2濃度を確認したり、ビデオを閲覧してから光合成実験に取り組んだり、最後に授業における教室のCO2濃度や室温の変化と光合成実験のCO2濃度変化をグラフで確認したりして、理解を深めてもらうための内容にした。具体的には、Pythonというプログラミング言語を利用してCO2濃度の自動更新やグラフ更新を実現本サイトにより名古屋産業大学の教室内で常時測定されているCO2濃度を用いて「現在の教室の換気状況（1分更新）」や「教室のCO2濃度と室温の変化グラフ（5分更新）」を閲覧者が、いつでもオンラインで分かりやすく知る体験できるようにした。また、「CO2濃度測定器を利用した光合成実験」の進め方を紹介するビデオの閲覧も可能にした。また、詳しい説明というリンクも配置し、プロジェクトへの参加を検討する教員を念頭に、本プロジェクトに対して、取り組みのきっかけ、目的、期待される効果、実施方法、本取り組みのPR、を紹介するページも作成した。</p> <p>【R3年10月20日、27日】光合成実験用透明ケース9台（劣化時の交換用3台を含む）、USB充電器3台（CO2測定器のAC電源利用も兼ねる）、CO2濃度測定器バッテリー3台が納品された。</p> <p>【R3年10月28日】瀬戸SOLAN小学校で連携授業のための事前打ち合わせを行った。また、事前準備として瀬戸SOLAN小学校3教室にCO2濃度測定器を設置し、CO2濃度データのインターネット配信を開始した。</p> <p>【R3年11月30日】瀬戸SOLAN小学校1年生16名を対象に対面授業（教室のCO2濃度確認、学校周辺のCO2濃度測定、光合成実験、授業のまとめ）を2時間実施した。</p> <p>【R4年1月29日】児童のより具体的で深い地球温暖化への理解を促すために、3名の代表者を対象としたオンライン質疑応答を1時間実施した。この様子は対面授業参加者のみならず、保護者等にも公開された。</p> <p>【R4年2月22日】オンデマンド型環境学習ビデオ（瀬戸SOLAN小学校の取組）を経費ゼロで完成させた。</p>
(4) プロジェクトの今後の課題と展望	<p>本取組に関心を持って頂く小中学校があったとしても、コロナウイルス感染拡大に伴い、次年度も対面支援がしにくい可能性がある。</p> <p>本年度の購入教材や取組記録を活用することで、次年度以降にも、同様の取組を行う体制を整えることができたため、非対面でも効果的な活動ができるように教材を発展させていきたい。</p>